

## 第4回 大阪・関西万博きょうと推進委員会 議事要旨

### 1. 日時・場所

日時：令和6年9月13日（金） 午後1時～午後3時

場所：京都ガーデンパレス 2階「葵」

### 2. 出席者

#### 【委員】（17名）

山極委員（座長）、西脇委員、松井委員、塚本委員（代理出席）、村田委員（以上共同代表4名）、安藤委員（代理出席）、池坊委員（代理出席）、ウスビ委員、沖田委員（代理出席）、榎田委員、田中委員、平尾委員、堀場委員（代理出席）、前川委員（代理出席）、村尾委員（代理出席）、山地委員（代理出席）、吉本委員（代理出席）

#### 【オブザーバー】

今泉オブザーバー、信谷オブザーバー（代理出席）

### 3. 議事概要

- ・冒頭、座長あいさつの後、大阪・関西万博きょうとアクションプラン Ver. 3（案）について事務局より説明。その後、新たに取組を提出された委員から取組についてご説明いただき、委員からご意見をいただいた後、委員の承認によりアクションプラン Ver. 3が決定した。
- ・関西パビリオン京都ブースにおける展示について事務局より説明。展示が決定したコンテンツの磨き上げや追加コンテンツの収集などにおいて、今後、構成団体も協力いただけるよう依頼した。
- ・10月12日開催予定の万博半年前機運醸成イベント「京都イロドリ EXPO こといろ」、来年万博会場内で実施する「（仮称）EXPO KYOTO Meeting」の概要案、推進委員会のオリジナルポスターやSNSなどの情報発信について、事務局より報告した。

#### 〈座長あいさつ〉

- ・淀川の大堰から上流に行けないようになっていることが懸案事項になっているが、遅くとも大阪・関西万博の開催までに完成し、淀川クルーズがこの横を通るようになる。京都には川がたくさんあって、琵琶湖とも繋がっている。瀬戸内が関西と繋がることによって新たな可能性が広がる気がしている。
- ・万博がゴールではなく、これを契機に京都を盛り上げようという出発点にしたい。

#### 〈主な意見〉

- ・会場建設費の給付、募金活動、前売り入場チケットの販売協力、セミナーやイベントの開催、公式ポスターの提出依頼など、機運醸成活動を行っている。会場建設費の寄付・募金活動では、協定企業約150社にご協力をいただき、京都経済界に依頼があった30億の寄

付金額の達成に向け鋭意取り組んでいるところ。前売り入場チケットは約 11 万枚の売り上げに協力をさせていただいた。大阪・関西万博の経済波及効果は 2.9 兆円とも試算をされており、京都においてもその経済効果を最大限に取り組み、万博の成果を次の経済成長に生かしていきたい。

- ・京都迎賓館は、京都府・京都市・京都商工会議所を中心にオール京都で誘致して建設された国の迎賓施設であり、令和 7 年に 20 周年を迎える。建物や調度品には数多くの伝統的スキルが活用されており、京都の文化や技術を世界に発信し、ブランド価値の向上に資する貴重な施設である。京都迎賓館と地元 4 者（京都府・京都市・京都商工会議所・ビューロー）が連携して、世界各国要人が万博を機に、京都迎賓館を訪れていただけるよう働きかけ、今後の各国首脳との接遇利用につなげたい。
- ・自然の森に代わるような、CO2 を大気から回収する装置を実証プラント会場の中に置くことによって、博覧会会場の中の CO2 の濃度を減らすというプロジェクトを実施予定。会場で見たい。
- ・平成 29 年度の「お茶の京都博」を機に製作した「黄金の茶室」について、関西パビリオンの多目的ブースで出展内定のご連絡をいただいた。「ものづくりのまち」久御山の企業の技術力を結集して制作されている。
- ・デジタル技術を用いた食文化の展示や、京菓子・和菓子の常設展示、または、京都の食に重要な役割を果たしてきた水や祭事の解説を通じて、京都の豊かな食文化、またはその精神性の普及・継承に努めてきた。今後も国内外の観光客の皆様、地域の皆様が継続的に食文化に親しむ機会を提供しながら、食文化の振興や若い担い手育成にも繋がる取組を行って参りたい。
- ・酒を飲みながら各地域単位で、少人数で集まって、少しディスカッションしながら、交流する場「EXPO酒場」について、会期中に 20 か所ぐらいで、例えば伏見とか梅小路などで実施していければ。
- ・アフリカンアート京都のプレイベント「和フリカ」を 10 月に予定している。アフリカの布を京都の着物にしたり、アフリカの音楽の演奏や展示をするイベントとなる予定。
- ・けいはんな万博運営協議会に参画の企業の数も増え、今 60 を超える研究所企業の方が参画をいただいている。テーマごとに部会を構成し、企画の検討・深掘りをしているところ。先端技術の社会実装を加速して、いろいろな枠のない、壁のない、シームレスな社会の実現をけいはんな学研都市が果たしていこうとして、色々な取り組みをしている。
- ・京都駅周辺エリアまるごとゲートウェイは、崇仁へ移転した京都市立芸術大学、東九条の小劇場 THEATRE E9 KYOTO、オープン予定のチームラボ、あるいは西部の梅小路エリアや KRP 等と連携することが大事。また京都駅に一極集中しないよう、対象エリアを広めにとって、巡回、周遊していただくことが良いと考えている。
- ・「きょうとまるごとお茶の博覧会」では、茶人・茶商・お茶の生産者・茶事や茶道具の職人さんまで、茶に関わる人みんなと一緒に茶文化の発信をしたい。またお茶関連の事業は幅が広いので、連携を持たせながらこのフラッグシップ・アクションをキーとして PR をしていきたい。
- ・沢山の万博事業を今後きちんと集約して、公式サイトなどを見れば京都で行われる万博関

連のイベントが全部分かる、といった情報発信の手法を検討したい。

- 「KYOTO地球環境の殿堂国際会議・未来会議」では、日本の環境に対する考え方やイメージというものを世界に発信して、人と地球の未来のあるべき姿を世界で考えてもらいたい。そのレガシーとして、その後の殿堂事業においても、若者が文化と多様な自然の共存・調和について発表する機会を継続していきたい。
- 川の京都という新しい観光周遊のコンセプトを作ろうと思っている。京都の生活文化や産業文化と川は切っても切れないため、連携してストーリーが描ける。今回の万博を契機に京都の川が注目されれば、将来活かしていくことができるので、川をコンセプトにした観光周遊も含めた活かし方をしていく。
- 万博を契機として、関西とも繋がっている瀬戸内海でも、様々な船が周遊できる形に作り変えようかという動きがある。これまでの大型観光とは違う、レベルアップされた観光事業がすでに瀬戸内海で始まっている。瀬戸内海の各島々には美術館や博物館があり、周遊できるようなメニューが考えられている。
- 公式参加者が休日に関西を周遊・観光できるような機会を設けられれば非常に喜ばれる。京都府の各市町村でもぜひ公式参加者を招待するようなプロモーション計画を作っただけだとありがたい。

以 上